

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400143		
法人名	有限会社ジュコウ		
事業所名	あったか広場一会 2F		
所在地	静岡県島田市東町1116		
自己評価作成日	令和5年6月30日	評価結果市町村受理日	令和5年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.katgokensaku.mhiw.go.jp/zz/index.php?action_kounyu_detail_022_kani=true&ligvosvCd=2295400143-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年8月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響で面会、外出が制限されてしまい、思うような活動ができませんでしたが、毎年の恒例行事である初詣や豆まき、おひな祭りや桜のお花見、らっきょう漬け等に付け加えて、昨年はパワーアップした高麗人参のはちみつ漬けを作りました。皆様「美味しいよ」と楽しい声をいただき、健康志向でコロナに負けない身体作りをしました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナが2類から5類になったことで、少人数なものの認知症カフェやまトレが6月から再開しています。「電機治療器の再利用を望む声も近隣から入った」とのエピソードだけでも、これまで事業所が地域に資源提供してきた実績が伝わります。「誕生日には一寸したものでいいからお祝いしてほしいなあ〜」の職員発言を受けてホールケーキの配付も始まっていて、利用者は無論のこと地域や職員の福祉(幸せ)を常に考えている事が本事業所の優れている点です。「コロナ禍で家族に会う日が減って寂しかったね」と、納涼際には久しぶりに家族を招き、ヨーヨー釣りやかき氷で歓声があがった一日もあり、これからの緩やかな回復に期待が膨らみ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に理念を把握できているか確認をしている他、各フロアの職員、入所者様の見える所に貼付し周知している。	理念は掲示するとともに、毎月のフロア会議ではテスト的な確認をおこない、浸透を図っています。そのため、日々のケアサービスにおいても個別ケアを理解していると受け止められる場面が多々見受けられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回、金曜日の午前中に施設の駐車場に移動スーパーが来てくれるので、買い物に来た近所の方々と交流を図っている。	巡回スーパー「とくし丸」でお菓子やご飯のお供などの買い物も楽しみですが、ご近所から人が集まってくるのも賑やかで、利用者には嬉しいコミュニケーションの機会が定期的にあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの養成講座、キャラバンメイトの養成講座の講師、中学校へ行き、中学生の方々に福祉、認知症についての出前講座を行い、認知症への理解をしていただける様に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かし、サービス向上への意見を各参加者よりいただき地域貢献に取り組んでいる。	コロナ禍であっても対策を密にして参会による運営推進会議を継続させ、行政と地域双方のメンバーも事業所の意向を汲んで協力くださっています。保育園の理事である自治会長からは園行事への誘いもあります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市と連携が図れるところは日頃より協力させていただきわからない事は連絡をして解決している。又、運営推進会議を活用して質問もしている。	市役所、地域包括支援センター共に運営推進会議の席についてもらっている為、窓口に出向かなくても直接質問できるメリットを享受しており、運営や取組みの助けになっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて継続して身体拘束廃止への研修やケアの内容を精査して常に拘束しないケアに取り組んでいる。	やむを得ず身体拘束に至るときの3要件、家族への説明と同意、期間を設けて定期的な見直しといった適切な手続について全職員が理解しており、また身体拘束廃止未実施減算に係る書面も全て揃っていることを視認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶための研修を行っている。またご利用者様が事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については研修を行い、理解を深めている。又、フロア会議等を利用し必要性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、しっかりと説明し納得していただいている。又、説明後でも納得がいかなければ説明する事を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1度近況報告を出し、ご本人の様子を伝えている。 毎月あったか広場通信を郵送しており、LINEを登録されたご家族には写真を送らせていただいている。	利用者家族には「あったか広場通信」を郵送するほか、コロナ禍で面会が減る状況打破としてLINEも導入、食事のときのこぼれる笑顔をパチリと収めるなど小さな変化も届け、家族とのキャッチボールに実っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第3火曜日には全体会議、フロア会議を開いている。職員の意見を聞ける機会を作っている。	開設当初からトップや幹部との隔たりがなく、オープンに何でも言い合えることが強みの事業所です。「誕生日には一寸したものでいいからお祝いしてほしいなあ～」の職員発言を受け、ホールケーキの提供も始まっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にアンケートをとり、具体的な意見を把握するように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行い、働きながら実践できるようにしている。必要な時には外部講師に来ていただいたり、外部研修への参加等も推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウィルスにより、交流が難しかったが、各自の提案を反映して取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当を決め、ご本人の要望になるべく応えるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネ、介護職員が要望を聞き、ケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意思、ご家族の要望など話しができる環境作りを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、できないことを一緒に考え、職員と一緒に共生の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月あったか広場通信を出し共有している。必要時は電話やメールで連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と電話、LINEを使用して支援に努めている。	納涼際には久しぶりに家族を招き、スーパーボールや輪投げで歓声があがる日となりました。かき氷は色とりどりから「選ぶ」楽しみがあり、景品の靴下をどれにするかで夜まで盛り上がり、コロナの終息を満喫しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人を把握して、関わりあえる様な環境作り、レクリエーションを行っている。(席替えなど)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、地域密着という事もあり、ご家族等の相談、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り1人1人の思いを聞き、どこまで対応ができるかご家族との外出の機会を作れるか検討し、対応している。	「〇〇が食べたい」は職員が伝言ゲームのようにして共有しており、ウナギや刺身、スイカなどがプラスアルファで食卓に並びます。オペレーションに関わるような要望はフロア会議で協議のうえ、議事録に残しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族、ご本人に入居する前のご本人の様子を聞かせていただき、サービス提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご本人の心身の状態を観察し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議、担当者会議でカンファレンスを行い、職員で話し合い、計画作成をしている。	前回目標とした「チームケアをおこなううえで、介護計画書の中に家族や地域資源としての関係者が入るようにする」との内容は、少しずつですが前進しています。またサービス担当者会議も参会で運営され、家族の理解を得るに至っています。	コンビニエンスストアやスーパーマーケットによく出かけているとのことですので、計画に位置づけることで、本人のQOLの高まりへと、更につながるものになることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画記録、排泄記録、日報、申し送り等の記録を徹底し、情報の共有を図り実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と相談し、対応できない場合の受診、買い物など柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2、3回、音楽療法の先生を招いたり、毎週金曜日の移動スーパーとくし丸でご本人が買い物を頼める様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、適切な医療が受けられるようにご家族、本人を支援している。	従来のかかりつけ医を継続しており、家族が送迎をおこなっています。ただ、家族の諸事情で「難しい…」となれば事業所の協力医に変更してもらっていて、現在8名の利用者を職員が担当、1回に数名ずつの相席で受診支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状態を伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリを作成し、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意見、意向を伺い、主治医の意見、相談などをして支援に取り組んでいる。	終末期ケアについて、此処1年の実績はありません。10名が在宅の頃からの医師に診てもらっていて、その医師の大半が看取りへの協力は見込めないことから、終末期には事業所の協力医に替えてもらうこととなります。	勤務の職員全員が看取り経験がない状況ですので、看取りに係る勉強会や話し合いなど、徐々に取組み、備えることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを定期的に再確認し、年に1回のAEDの操作方法の確認など、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、避難訓練を行い、災害時の対応確認をしている。	消火、避難などの訓練は職員だけでならず、利用者にも水消火器の操作をお願いしており、「面白い」と積極的な人もいてワイワイ賑やかです。今年度はガスコンロで高野豆腐を使った麻婆豆腐をつくる炊きだし訓練にもチャレンジしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に配慮した声かけ、入浴、排泄等はプライバシーに充分注意して行っている。	呼称は「～さん」、下の名前ですが基本ですが、中には名字の人がいたり、場面によっては「～ちゃん」となることもあって、呼び方は統一されてはいませんが、関わりはフレンドリーであっても丁寧にと、管理者が目配りしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるよう、話しやすい環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、入浴などご本人のタイミングや希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みに合わせ、実現できるように支援している。(服と一緒に選ぶなど)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付け、食事の食器洗いなど、ご本人に伺ってから手伝っていただいている。	専任調理者を配置することで、副菜が3品との豊富なメニュー構成となり、利用者だけでなく家族にも好評です。食事への利用者の参画は「全員ができるもの」との公平さに配慮していて、お盆拭きとテーブル拭きのみとしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	計画記録で食事量、水分量を把握し、月に1回体重測定をし、健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、ご本人の状態にあったケアをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、1人1人の排泄リズムを把握してトイレの声かけなどを行っている。	指示が入らなくなってしまった1名がおむつと なっていますが、自立を第一として、2人介助となっても「トイレで座って～」を目指しています。また「トイレに行きたい」が頻回な人、汚染が激しい人もいますが、職員はやかな環境を保つよう尽力しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を見て、排便状態を把握し、排便がない場合は散歩や水分を多めに取ってもらい工夫している。それでもダメな時は主治医へ相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめる様、会話を重視し、週3回個々に沿ったコミュニケーションを大事にしている。	一度は入浴剤を休止しましたが、「香りのよい入浴で睡眠の質を高めたい」との考えから復活するとともに、ゆず湯やしょうぶ湯などの時節風呂は長年続けています。湯船で胸襟を開き、職員に四方山話をしてくださる人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の状況に合わせた夏冬の布団やパジャマ選びや室温の調整及び照明を暗くするなど、気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が徹底して管理し、介護職員と連携を図り服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人と話し合い、食器洗いやおぼん拭き、洗濯物たたみを職員と一緒にしている。季節の漬物作りや散歩やドライブなどを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節感を大事にし、外出レクを計画したり、施設内でできる行事を計画し支援している。	金比羅山緑地公園、大井川沿いの桜並木と、春になると桜の名所探訪は事欠かさず、ベンチに座ってひとときおしゃべりや記念撮影で笑顔の花を咲かせることは恒例行事となり、3月に入ると「そろそろだね」と話材にする利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は財布を持っていただいております。欲しい物(衣類や靴下、食べ物)は職員と買い物へ行き、利用者様自らお金を出して買い物できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	まだコロナが気になるご家族などには、携帯でLINE、TV電話を使いお互いに顔を見ながらお話しをできる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアの温度計、湿度計を確認し、室内温度の徹底に努めている。	リビングではYouTubeでどんな番組を観るか、どの体操をしたいかなど、利用者の意見による視聴もあり、ドリフターズや歌番組が提供されていますが、聴覚が敏感な人もいるため、「必要以上の音がしないように」との環境設定がおこなわれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に席替えをし、他入所者様と楽しく会話をできる居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に住み慣れた自宅で使用されていた物を持ってきていただき居心地よく過ごせるように支援している。	家族からプレゼントされた艶やかなソープフラワーを置く部屋もあり、またアクティビティで制作したフラワーアレンジメントを飾る人もいます。趣味である詩吟の本を並べる人もいて、それぞれが好みのものに囲まれて生活しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアがわかるように大きく「トイレ」の文字やしるしを付け、夜間帯はドア下に照明を置き、自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400143		
法人名	有限会社ジュコウ		
事業所名	あつたか広場一会 3F		
所在地	静岡県島田市東町1116		
自己評価作成日	令和5年6月30日	評価結果市町村受理日	令和5年9月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajirokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanji=true&jiyosyoCd=2295400143-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年8月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナの影響で面会、外出が制限されてしまい、思うような活動ができませんでしたが、毎年の恒例行事である初詣や豆まき、おひな祭りや桜のお花見、らっきょう漬け等に付け加えて、昨年はパワーアップした高麗人参のはちみつ漬けを作りました。皆様「美味しいよ」と楽しい声をいただき、健康志向でコロナに負けない身体作りをしました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナが2類から5類になったことで、少人数なものの認知症カフェやまトレが6月から再開しています。「電機治療器の再利用を望む声も近隣から入った」とのエピソードだけでも、これまで事業所が地域に資源提供してきた実績が伝わります。「誕生日には一寸したものでいいからお祝いしてほしいなあ～」の職員発言を受けてホールケーキの配付も始まっていて、利用者は無論のこと地域や職員の福祉(幸せ)を常に考えている事が本事業所の優れている点です。「コロナ禍で家族に会う日が減って寂しかったね」と、納涼際には久しぶりに家族を招き、ヨーヨー釣りやかき氷で歓声があがった一日もあり、これからの緩やかな回復に期待が膨らみ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的に理念を把握できているか確認をしている他、各フロアの職員、入所者様の見える所に貼付し周知している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	週1回、金曜日の午前中に施設の駐車場に移動スーパーが来てくれるので、買い物に来た近所の方々と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの養成講座、キャラバンメイトの養成講座の講師、中学校へ行き、中学生の方々に福祉、認知症についての出前講座を行い、認知症への理解をしていただける様に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を活かし、サービス向上への意見を各参加者よりいただき地域貢献に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市と連携が図れるところは日頃より協力させていただきわからない事は連絡をして解決している。又、運営推進会議を活用して質問もしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて継続して身体拘束廃止への研修やケアの内容を精査して常に拘束しないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶための研修を行っている。またご利用者様が事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については研修を行い、理解を深めている。又、フロア会議等を利用し必要性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、しっかりと説明し納得していただいている。又、説明後でも納得がいかなければ説明する事を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1度近況報告を出し、ご本人の様子を伝えている。 毎月あったか広場通信を郵送しており、LINEを登録されたご家族には写真を送らせていただいている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第3火曜日には全体会議、フロア会議を開いている。職員の意見を聞ける機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員にアンケートをとり、具体的な意見を把握するように心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行い、働きながら実践できるようにしている。必要な時には外部講師に来ていただいたり、外部研修への参加等も推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスにより、交流が難しかったが、各自の提案を反映して取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居室担当を決め、ご本人の要望になるべく応えるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネ、介護職員が要望を聞き、ケアに活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の意思、ご家族の要望など話しができる環境作りを心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、できないことを一緒に考え、職員と一緒に共生の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月あつたか広場通信を出し共有している。必要時は電話やメールで連絡をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と電話、LINEを使用して支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人を把握して、関わりあえる様な環境作り、レクリエーションを行っている。(席替えなど)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、地域密着という事もあり、ご家族等の相談、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り1人1人の思いを聞き、どこまで対応ができるかご家族との外出の機会を作るか検討し、対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族、ご本人に入居する前のご本人の様子を聞かせていただき、サービス提供に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のご本人の心身の状態を観察し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	フロア会議、担当者会議でカンファレンスを行い、職員で話し合い、計画作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画記録、排泄記録、日報、申し送り等の記録を徹底し、情報の共有を図り実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と相談し、対応できない場合の受診、買い物など柔軟に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に2、3回、音楽療法の先生を招いたり、毎週金曜日の移動スーパーとくし丸でご本人が買い物を頼める様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を図り、適切な医療が受けられるようにご家族、本人を支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に日々の状態を伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリを作成し、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族の意見、意向を伺い、主治医の意見、相談などをして支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを定期的に再確認し、年に1回のAEDの操作方法の確認など、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回、避難訓練を行い、災害時の対応確認をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に配慮した声かけ、入浴、排泄等はプライバシーに充分注意して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定できるよう、話しやすい環境作りを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、入浴などご本人のタイミングや希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みに合わせ、実現できるように支援している。(服と一緒に選ぶなど)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付け、食事の食器洗いなど、ご本人に伺ってから手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	計画記録で食事量、水分量を把握し、月に1回体重測定をし、健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、ご本人の状態にあつたケアをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認し、1人1人の排泄リズムを把握してトイレの声かけなどを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を見て、排便状態を把握し、排便がない場合は散歩や水分を多めに取ってもらい工夫している。それでもダメな時は主治医へ相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめる様、会話を重視し、週3回個々に沿ったコミュニケーションを大事にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の状況に合わせた夏冬の布団やパジャマ選びや室温の調整及び照明を暗くするなど、気持ち良く眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が徹底して管理し、介護職員と連携を図り服薬の支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人と話し合い、食器洗いやおぼん拭き、洗濯物たたみを職員と一緒にしている。季節の漬物作りや散歩やドライブなどを行い支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を大事にし、外出レクを計画したり、施設内でできる行事を計画し支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は財布を持っていただいております。欲しい物(衣類や靴下、食べ物)は職員と買い物へ行き、利用者様自らお金を出して買い物できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	まだコロナが気になるご家族などには、携帯でLINE、TV電話を使いお互いに顔を見ながらお話しをできる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアの温度計、湿度計を確認し、室内温度の徹底に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に席替えをし、他入所者様と楽しく会話をできる居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に住み慣れた自宅で使用されていた物を持ってきていただき居心地よく過ごせるように支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアがわかるように大きく「トイレ」の文字やしるしを付け、夜間帯はドア下に照明を置き、自立した生活が送れるよう工夫している。		